

「鹿央地域に小学校を残して」と書かれたボードも掲げられた千田校区の住民説明会＝24日夜、山鹿市鹿央町



山鹿市教育委員会が旧鹿央町の3小学校と旧山鹿市の米田小の4校を統合する場所を米田小に決めたことに対し、旧鹿央町の住民が反発している。統合小は2017年春に開校予定。計画通りに進めば、平成の合併で県内市町村が94から45となり、初めて旧市町村で小学校がなくなる。

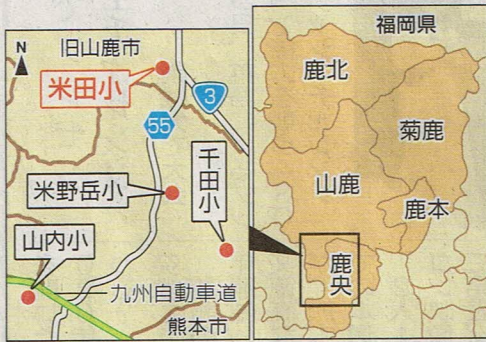
小学校消滅「なぜ鹿央だけ」

山鹿市の統合計画 旧町住民ら反発

「小学校は地域の核施設だ」「過疎化が進む」「白紙撤回を」

24日午後7時半。鹿央市民センターで千田校区の住民説明会が始まる。参加した約70人が市教委幹部らに声を荒げた。議論は平行線をたどったまま、午後11時過ぎに説明会は終わった。

市教委は複式学級の解消などを目的に「1中1小」を基本に小学校の再編を08年度に計画。統合の財源と見込む合併特例債の使用期限が迫る中、今年から検討を本格



くまもとの

明日

KUMAMOTO FUTURE

化させた。

旧鹿央町の米野岳、千田、山内と、旧山鹿市の米田の4小の児童は旧鹿央町にある旧市町組合立の米野岳中に通っており、旧市町を越えた再編を考えた。

統合小の場所は中学の隣接地に建設する案もあったが、用地不足などで断念。市教委は教室数や施設の耐用年数、通学路など46項目を点数化し、5月末に点数上位の米田と千田に絞り込み、住民に説明した。

そして8月。「近くに消防署や警察があり、子どもの安全安心をより確保できる」として市中心部に近い米田小への統合を決定。4小それぞれのPTAや校長、区長の16人で構成する統合準備委員会の了承を得て、市議会に米田小の

増改築設計費1087万円を提案し、可決された。

住民説明会は決定を周知するために開かれたが、旧鹿央町住民は「決定までの経緯説明が一切なく一方的だ」と反発。加えて、米田小が市が作成したハザードマップの浸水想定区域にあることを挙げ、決定の撤回を訴える。

4小の児童数は計348人。1校が5学級以下の過小規模校、他の3小も6～11学級の小規模校で、市教委は6年後はさらに約100人減ると予想する。

説明会に参加した住民にも「統合はやむを得ない」という声が多い。ただ、合併前の菊鹿、鹿本、鹿北の3町には小学校が1校ずつ残る計画だけに「なぜ鹿央だけ」との思いは根強い。

堀田浩一郎教育長は「統合小に通う新入学児は『新山鹿市』の生まれ。旧市町にこだわらず、学校づくりには住民が一体となり協力してほしい」と理解を求め、溝は大きい。

(若下勉)

「地域の核」「過疎化進む」…市と溝深く